

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態
研究室配属	必須	5 (講義2実習3)	4	1	月一金	日本語	英語	オムニバ ス

【担当教員】 各講座 指導教官

【科目名の英文】 Practical Research Experience Program (PREP)

【授業の概要・到達目標】

国内・国外の研究施設を問わず、研究活動に従事している医師・研究者から早期に研究指導を受けることにより、研究の重要性・醍醐味を知ること、研究的探究心（リサーチマインド）を育むことを目的とする。また、将来の医学研究を担う人材として、研究チームの一員として協調的な学習環境の中で問題解決能力を高め、生命医学領域に対する学習意欲の向上につなげる。発展的な目標として、「大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース（ORPhDプログラム）」への意識付けの機会を提供する。

具体的な到達目標	医学科ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. 必要な課題を自ら発見できる	○		○	○	○	○
2. 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる	○		○		○	○
3. 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる			○			
4. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる	○		○			○
5. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる	○	○	○			○
6. 実験・実習の内容を決められた様式に従って文書と口頭で発表できる	○	○	○			○
7. 生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる	○		○		○	○
8. 患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる	○		○		○	○
9. 抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、解決に向けて科学的研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加することができる	○		○		○	○
10. 医学研究と倫理（それぞれの研究に対応した倫理指針と法律）を説明できる				○		
各DPへの関連度（計10）	2	1	4	1	1	1

【授業の内容】

1. 特定の研究テーマに焦点を絞り、それを扱う研究室で実際の研究活動に従事し経験を深める。
2. 様々な研究テーマの存在について知り、それらのテーマを解明するための方法論を実践することを通して、発見の喜び、研究者の苦悩、研究者間の交流や情報交換などに直接触れる機会を持つ。
3. 研究室で行われている研究・実験の補佐から共同研究者としての活動、実験やフィールドで得られたデータの処理や解析などを指導教員や大学院生とともに行う。
4. 可能であれば学会発表、論文執筆なども体験する。
5. 配属期間の最後に発表会を行い、研究成果を口頭で発表する。
6. 研究室配属実行委員をあらかじめ決め、配属先の決定やプログラム作成など発表会の企画運営を含め、基礎医学部会教員の指導を仰ぎながらすべて学生主導で行う。
7. 将来の学会運営と発表のシミュレーションを行うことも目的とする。
8. **発表技術向上の目的から、中塚医学賞の受賞者セミナーを聴講する。**

[学外機関（国内、国外）での研究を希望する場合]

1. 学生が自分でコースと研究内容を企画し、事前に学内窓口となる教員へ依頼する。
2. 学生自身が事前にコース企画書を作成し、受入れ先指導者の受入れ承諾のメール等を提出して、基礎医学部会からの承認を受けることが必要となる。
3. カリキュラムの企画、国内外受け入れ機関との交渉は学生自身が行う。
4. 保護者の同意書を得て、渡航費、滞在費は各自の負担とし、また傷害保険への加入を義務づける。（国外派遣の場合には、語学能力検定の結果（写）を添付する。）

[研究成果の発表]

1. 報告書

指導教官の指示に従い、期間内（先行配属期間も含む）に実施した研究内容をまとめる（下記参照）。また、報告書の作成に当たっては、研究実施内容を実習参加学生にも理解できるよう努める。このことで学生の研究実施分野以外の領域への理解を深め、今後の学習意欲の向上を図る。

(例)「課題解決研究」のまとめ方

- ①目的（研究背景）、②方法、③結果（図表を含めてもよい）、④考察、⑤（必要であれば）参考文献といった一般的な論文形式でまとめることとする。

(例)「課題発掘研究」のまとめ方

- ①当該分野の背景、②課題・問題点、③課題解決に向けた方法（提案）とその根拠、④参考文献

2. 発表

研究室配属に参加した学生は口頭発表で（状況に応じてTeams・オンデマンド方式への変更もあり得る）、指導教官（指導講座）以外の教員・学生に対して研究成果を報告する。発表することにより、学生の発表技術向上を目指すとともに、当該分野以外の研究者・学生に「気づき」をもたらすことを期待する。

配属学生主導で十分な成果をあげ、その内容を学会等で学生が責任発表者として発表する場合、かつ、参加学会が本学発表会と日程上かぶる場合のみ、参加学会での発表を優先することを認める。ただし、その旨担当教官（講座責任者）から申請文章を提出することを条件とする。

【アクティブラーニングの内容】 全体を通して学生自ら目標を定め、計画して学修に取り組み、省察して次の学びにつなげていく「主体的な学び」を行う。	【その他の工夫】 上記すべて
---	--------------------------

【時間外学修の内容と時間の目安】

原則、研究時間は月曜から金曜の8:30-16:30（所属する研究室や教員の都合によりこの限りではない。）

準備学修	各研究室の指導に従う
事後学修	各研究室の指導に従う
想定時間合計	各研究室の指導に従う

【教科書】

適宜

【参考書】

適宜

【成績評価方法及び評価の割合】

1. 学内での研修の場合は、配属先の教授及び担当教員から単位認定を受ける。
2. 学外（国内外）での研修の場合は、窓口教員が配属先の教員との合議の上で認定する。
3. 配属期間内の内容を発表会で報告（口頭）し、併せてレポートとしてまとめ、報告集として発刊する。

<研究室配属の学生による評価方法>

研究室配属に関するアンケートを実施する。

<進級、再履修>

研究室配属の評価が不可（60点未満）の場合は留年とする。

留年した場合の再履修は次年度の配属の期間に行う。

教員側の評価項目（参考）

1. 期間中に何をを行ったかについてレポート（様式自由）と期間中に記録したノートの提出
（実験手技、実験データ、科学的な言葉で記載されているか、論旨の誤り、飛躍はないか等）
2. 与えられた研究テーマに対する理解力と問題解決能力、批判する能力
3. 知識・技能の到達度
4. 英文原著論文の読解力
5. コミュニケーションスキル能力（指導教員、講座内メンバーと良好な人間関係が築けたか）
6. 積極性

上記の項目及び報告書の内容を総合的に判断し、研究指導教官（もしくは指導講座の講座責任者）が評点をつける。

今後の学生の研究意欲向上を奨励する目的で、指導教官が推薦した優れた発表した者に「西日本医学生学術フォーラム」への参加を奨励する。

【注意事項】

研究に際し遺伝子組換え実験、ラジオアイソトープ、実験動物の使用を行う場合には、事前に講習会や当該施設利用のための研修会に参加し、利用規則を遵守する。その他危険物、感染性病原体を取り扱う場合も、厳重な注意が必要である。患者臨床データにおける個人情報を取り扱う研究テーマに関しては、必要に応じて倫理委員会での承認の上、特に慎重に実施する。

【備考】

研究室配属の詳細やタイムスケジュール等に関しては、学務課や実行委員の指示に従うこと。

特に学外実習の実施については、配属先の担当教員の指示に従うこと。

リンク	URL	
教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	医師， 歯科医師， その他研究に関わる教員
教員の実務経験		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	医師， 歯科医師， その他研究に関わる教員
教員以外の指導に関わる実務経験者		教員の指導・監督の下、大学院生が実際の研究指導を実施する場合がある
実務経験をいかした教育内容		教職員は自らの研究活動を元に、配属学生の研究活動への支援を行う
授業形態		対面